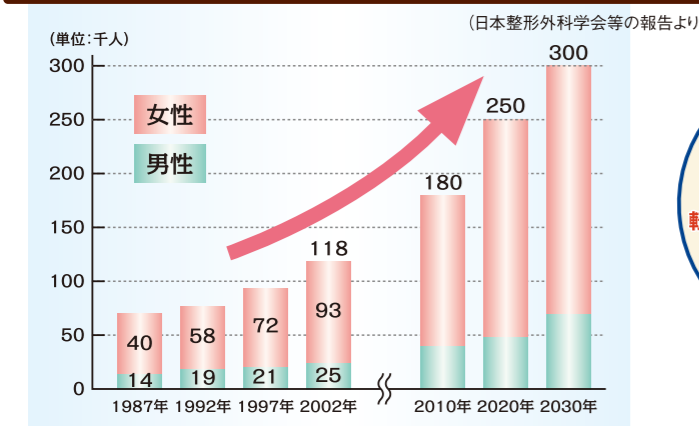
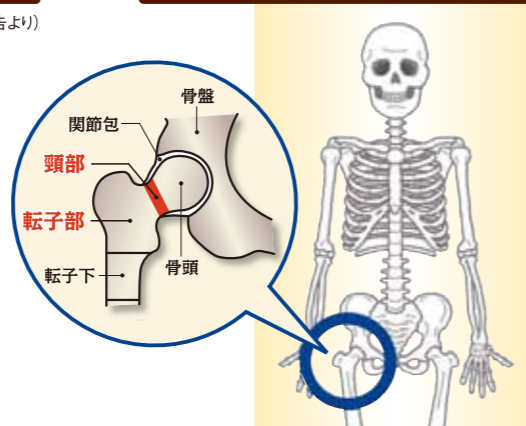


大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折の発生患者数(全国)



大腿骨頸部と大腿骨転子部



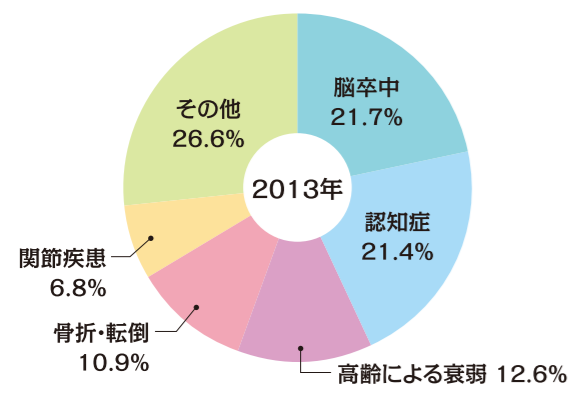
大腿骨近位部骨折は  
当日手術で!



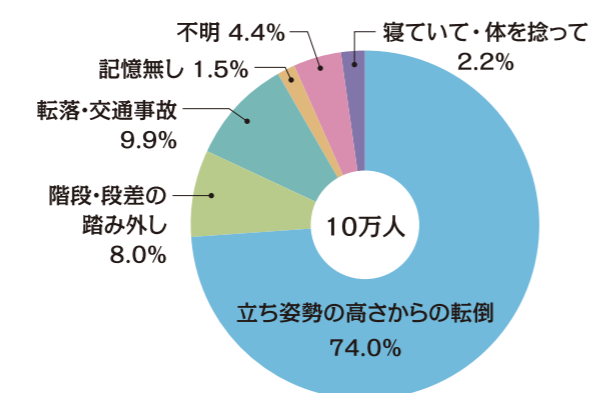
年を追うごとに急増している  
大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折

寝たきり⇨要介護状態に陥るのを回避!

介護が必要になった原因



大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折の原因



寝たきり⇨要介護状態に陥る  
高齢者の約1割は  
骨折・転倒がきっかけ

大腿骨近位部骨折は①手首の骨折(橈骨遠位端骨折)や②腕の付け根の骨折(上腕骨頸部骨折)、③背骨の骨折(脊椎圧迫骨折)と同様、高齢者の4大骨折の1つです。なかでも、痛みから歩行が困難になる大腿骨近

いた「廊下と和室の段差に足を引っかけた」など、ちょっとしたきっかけから倒れ、大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折を招くケースがほとんどなのです。「高齢になると筋力などの低下から転びやすくなっている方や、骨が脆くなる骨粗鬆症を進行させている方が少なくありません。そのため、些細な転倒から大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折を引き起こしてしまうのです」

年間20万人以上にのぼる  
高齢者の大腿骨近位部骨折

近年、太ももの付け根の骨を折る65歳以上の高齢者が急増しています。年間20万人以上にのぼるといいうから衝撃的です。「太ももの付け根の骨とは大腿骨の上端付近を意味し、医学的には大腿骨近位部と呼びます。大腿骨近位部骨折は、主に①大腿骨の上端の骨頭と隣接する彎曲箇所(頸部)の骨折⇨大腿骨頸部骨折と、②そのすぐ下の転子部の骨折⇨大腿骨転子部骨折の2つです」

こう説明するのは、大腿骨近位部骨折の高齢者に対して、病院へ搬送されてきたその日のうちにすみやかに手術を行う、当日手術で大きな成果をあげている、東戸塚記念病院の山崎謙院長(整形外科)です。

実は、大腿骨近位部骨折の原因は9割以上が転倒です。転倒といっても派手なものではありません。「部屋の中でつまずいた」「尻もちをつ

「高齢者が、要介護状態となった原因の第1位は脳卒中(21.7%)、第2位は認知症(21.4%)、第3位は高齢による衰弱(12.6%)で、骨折・転倒(10.9%)が第4位にランクされています。しかも、大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折が、この要介護状態に陥る骨折・転倒の大半を占めているのです」

大腿骨近位部骨折を起こすと、太ももの付け根の部分に痛みが生じます。骨折箇所があまりずれていないと、痛くても歩けることがあります。しかし、その多くは立つことや歩くことができなくなります。

「大腿骨近位部骨折の治療で重要なのは、なによりも患者さんを出来るだけ早く立ったり歩けたりするように努めることです。なぜならば、高齢者を長くベッドに寝かせたままにすると、足の筋肉をはじめ全身の筋肉が時々刻々痩せ衰え、筋力の急速な低下などから寝たきり⇨要介護状態に陥ってしまうからです」

取材協力/山崎謙院長・東戸塚記念病院整形外科

取材・文/松沢実・医療ジャーナリスト



### 山崎 謙 (やまざき・けん) 院長

1988年宮崎医科大学卒業。東戸塚記念病院の整形外科科長、副院長を経て2014年に院長。日本整形外科学会専門医、同認定脊椎脊髄病医、同認定スポーツ医、同認定リウマチ医。日本脊椎脊髄学会認定脊椎脊髄外科指導医、日本リウマチ学会専門医、義肢装具適合判定医師。東戸塚記念病院は全病床数 292床のうち整形外科の病床が約3分の1 (90床) を占める。救急搬送の受け入れ台数は年間6500件以上、高齢者や認知症の患者さんなども積極的に受け入れられていることから、横浜市はもとより、東京や静岡など近県から来院する患者も多い。また、同病院は神奈川から東京、東北、北海道など東日本に75の病院やクリニック、介護老人保健施設などを展開する IMS (イムス) グループの一翼を担う医療機関として広く知られている。

東戸塚記念病院 整形外科 <http://www.higashi-totsuka.com/>  
〒244-0801 神奈川県横浜市戸塚区品濃町548-7 TEL. 045-825-2111



### ガンマネイル固定術



### 人工骨頭置換術



事実、高齢者がベッドで1週間寝ていると筋力は20%低下します。2週間で36%、3週間で68%低下し、骨折が治ったとしても寝たきりとなるケースが後を絶たないのです。

### 欧米では受傷後 48時間以内の早期手術が普及

大腿骨近位部骨折の治療は、歩行などが早く可能となる手術を基本とします。

「大腿骨の上端⇨骨頭と隣接する弯曲箇所(頸部)が骨折した大腿骨頸部骨折には、主に骨頭を人工のものに置き換える人工骨頭置換術を行います。大腿骨頸部のすぐ下の転子部が骨折した大腿骨転子部骨折には、主に髓内釘(ネイル)や金属プレート、ネジ(スクリュー)などで固定する骨接合術で治すことがほとんどです」

重要なのは、大腿骨近位部骨折を受傷したら、すみやかに手術を行うことです。米国をはじめとした欧米のガイドラインでは、受傷後48時間以内の早期手術が推奨され、寝たきり⇨要介護状態の防止に大きな成果

をあげています。「とりわけ北欧のスウェーデンでは、大腿骨近位部骨折に受傷後24時間以内の早期手術が徹底されています」

### 立ち遅れている わが国日本の現状

一方、わが国ではどうなのでしょう。『大腿骨頸部・転子部骨折ガイドライン』(日本整形外科学会等)では、「受傷後24時間以内の早期手術」や「受傷後48時間以内の早期手術」の文言は見当たりません。残念ながらいまのところ「少なくとも受傷後1週間以内の早期手術を推奨」との文言にとどまっているのです。

実際、日本の現状は大きく立ち遅れています。大腿骨近位部骨折で病院へ救急搬送されてきた患者さんでも、手術を受けるまで何日も待つケースが少なくありません。そんな負の現実を克服するべく、患者さんが搬送されてきたその日のうちに手術を行うという当日手術に取り組んでいるのが、山崎院長をチーフとする東戸塚記念病院の整形外科チームなのです。

可能になったのです」

### 大腿骨近位部骨折に 対する手術で 全国有数の実績を誇る

当日手術を可能とするあと1つの要因は、人工骨頭置換術や骨接合術に用いる人工骨頭やネイル、スクリューなどの固定材料(インプラント)をはじめ、それらを患部に挿入する医療機器(デバイス)が進化し、すみやかに手術を完遂できるようになったことがあげられます。

「大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折に用いる、インプラントやデバイスの進歩は素晴らしいものがあります。その結果、患者さんの肉体的負担も軽くなり、すみやかな当日手術が可能になったのです」

東戸塚記念病院では、2013年大腿骨近位部骨折に対して年間331件の人工骨頭置換術を行っていています。神奈川県内の病院でもっとも多く、全国でも3番目の手術件数で、高齢者の命と生活を守る地域に密着した病院として厚い信頼が寄せられています。

### 人工骨頭置換術は30分以内 骨接合術は5~10分

では、手術のリスクが大きい高齢の患者さんに対して、なぜ山崎院長らは当日手術が可能なのでしょう。か「1つは患者さんの肉体的負担を軽くするため、最小の傷(切開創)で、かつより短時間で手術を完遂できるように手術手技に工夫を凝らし、その訓練を日夜積み重ねてきたことです」

大腿骨頸部骨折の人工骨頭置換術は、①従来の後方アプローチと②脱臼がしにくい前方アプローチの2つの方法があります。山崎院長らは、後方アプローチならば30分以内、前方アプローチでも1時間以内に終わらせています。

「大腿骨転子部骨折の骨接合術の場合、当院では主にガンマネイル固定術で手術しますが、5~10分で手術を終えてしまいます」

手術時間が短いほど患者さんの肉体的負担は少なく、それだけ合併症などを抱えた患者さんでも手術が可能となるわけです。

### 不可欠なのは当日手術が可能な病院を探ること

大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折は、60歳を超えると増加し、70歳以降は累乗的に急増します。とりわけ骨粗鬆症を進行させやすい閉経後の女性は注意を要します。

「怖いのは患者さんの生活の質が脅かされるだけではなく、生命予後にも大きな影響が出てくることです」ちなみに、大腿骨近位部骨折の患者さんの、受傷1年後の生存率は80~90%という報告もあるくらいです。だからこそ可能な限り早く手術を受け、すみやかに歩行などの機能の回復をはかり、寝たきりなどを予防することが求められるのです。

ある報告によると、65歳以上の高齢者の20~25%が毎年転倒するといわれています。すでに高齢の人はもちろん、誰もが高齢になればいつ大腿骨近位部骨折を招いてもおかしくありません。東戸塚記念病院のように当日手術を行ってもらえる病院をご自宅の近くで普段から探しておくといひでしょう。